

日本人の生活様式

1 ざぶとん

座るときに床などに敷く布製の小型のふとんこと。四角形のものが多いが、丸いものもある。

2 てぬぐい

手や顔などをついた水や汗などをふき取る時に使われる布のこと。長さはさまざまだが、形は方形のものが多い。

3 まえかけ

着ている衣服が汚れないように、体の全面に、主として腰から下に着付ける布のこと。調理などに着用されることが多い。

4 たすき

着用している衣類の袖をたくし上げるために、肩から脇を通して背中にもわして結ぶ紐のこと。掃除や調理をするときに結ばれることが多い。

5 かつぼうぎ

着物の上からすっぽりとかぶり、料理や掃除・洗濯などのときに使用する衣のこと。主に女性が着用する。

6 はちまき

力を入れて作業に取り組むときなどに頭の部分を巻く布のこと。古くは武士と呼ばれる戦士たちが戦いの時に頭に着用したことから始まった。

7 着流し

古くから日本人の男性の和服の略式の服装のこと。羽織や袴を着用しないことをさす。軽装なので行動がしやすく、気持ちもリラックスできることが多い。

8 振袖

日本人の和服のスタイルの1つで、腕を通す袖の長さが長い着物のことをいう。若い男女が着用するのが一般的。

9 手袋

布で手をおおい、寒さや外傷・災害などから守ったり、また正式な催しや場面で着用する衣類の1つ。

10 足袋

足の形を模して作った和服を着るときの布状のはきもの。親指と他の指が分かれるようになっており、寒さよけや外傷を防ぐ役割をする。また、白い足袋は正式な儀式などに着用する。

11 背広 (スーツ)

普通は仕事の時に、男性が着る洋服のこと。上着・ズボンなどを身につけ、上着のなかに「ちょっき」とう袖なしの衣類をを着用すると、「三つぞろい」と呼ばれる。前ボタンが一行のものを「シングル」、二列のものを「ダブル」という。

12 学生服

主に日本の中学生や高校生、以前は大学生が着用した制服（正式な服装）のこと。近年は着る機会が減ってきているが、日本の学生たちの象徴であった。

13 のれん

古くから家の軒先に掲げ、日よけや寒さよけなどとして使ったり、商店では店頭に掲げて店の名を染め抜いて示した布のこと

14 さしみ

魚肉などを生のままでうす切りにし、醤油などにつけて食べるもの。「刺身」と書く。寿司屋などで出されることが多い。

15 お好み焼き

小麦粉を水で溶かし、好みに応じて魚・野菜・肉などを入れ混ぜ、熱く焼いた鉄板の上で焼き上げる食べ物。手軽に調理でき、日本人の間で広く知られている。

16 たこ焼き

小麦粉を水で溶き、卵を混ぜ、蛸を主にして葱などを加えて、鉄製の型に入れて球形に焼き上げる食べ物。早く安く食べられる庶民的な食の1つ。

17 ラーメン

卵や塩・水などでよく練った小麦粉を基本とする麺を、熱湯で作ったスープに入れて食べる料理のこと。好みで肉類や野菜などを加える。日本人が好む食べ物の1つだが、近年は熱湯を器に入った固い麺にかけて早く食べる「カップラーメン」などが人気である。

18 バイキング

ホテルの食堂やレストランなどで、さまざまな料理をテーブルに並べておき、客が自分の好みに応じて食べる形式のこと。もしくはその料理のことをさす。

19 ファミリーレストラン

家族向けの料理店のこと。豊富なメニューからさまざまな食事をするができるようになっており、量の割りに値段が安いことも利用客が多い理由の1つである。ファミレスと略されて呼ばれている。

20 ファースト=フード

日本全国にある早く安く食べられる店のこと。あるいはそこで出される食べ物のことをさす。ほとんどはチェーン店化されており、ハンバーガーやフライド=チキンなどを持ち帰ることができる。

21 立ち食い(店)

駅の構内やその周辺、商店街などで営業しているそば・うどん・カレーライスなどを安く提供する店、あるいは食べ物のこと。注文した品が目の前で作られることが多く、素早く出されることが特徴の1つ。

22 すき焼き

鉄製の鍋に、牛肉や鶏肉を野菜や豆腐などと混ぜ合わせて、煮て焼いて食べる料理のこと。別の器に卵をといで、そこに浸して食べるが多い。

23 オムレツ

卵をときほぐし、塩・胡椒などの調味料を加え、フライパンで焼き、形を整えて作る卵料理。最後に卵の上にケチャップなどをかける。また、肉や野菜を卵に入れて焼く場合もある。

24 焼き鳥

鶏肉に塩や汁(「たれ」という)などをしみこませ、竹などで作った串に刺して火であぶり焼いて食べる料理。牛や豚の内臓を焼くこともある。焼き鳥を提供する店を焼き鳥屋(店)と呼んでいる。

25 冷奴

特に夏の季節に、豆腐を水や氷にさらして冷やしておく。好みに応じて鰹から削り作った鰹節や細かくきざんだ葱など加え、醤油をかけて食べる簡単な豆腐料理の1つ。

26 出前

商店が客からの品物の注文を受け、料理などを客の家に届ける行為やその料理のことをいう。寿司屋やそば・うどん屋は以前から、近年はピザ屋なども出前を行っている。

27 回転寿司

カウンターやテーブルの前で、寿司や刺身などを中心にさまざまな料理が機械によって運ばれ、客の前を回転する。客は自分の前に来た料理を、入っている器ごと取って食べる。普通の寿司屋よりもメニューは多くて値段も安いので、人気がある。

28 漬物

大根・白菜などの野菜を、木製の樽や器などに塩や糠味噌などにしばらく浸して漬けておき、よくなじんだ頃に取り上げて食べる料理。漬け方によってさまざまな種類があるが、一般の日本人の料理としてよく食べられている。

29 塩辛

烏賊などの魚介類の肉・卵・内臓を塩に漬けて発酵させて食べる料理のこと。素材によってさまざまな名称がある。普通は酒席で食べることが多い。

30 とろろ

山野でとれる山芋などをすりおろして食べる料理の1つ。とろりとした粘り気がある液状になるのでこの名があり、それを飯にかけて食べることが多い（「とろろ飯」という）。また、とろろ汁というスープにすることもある。

31 しもふり

霜がおりたように白色の斑点になった模様のことをいうが、一般的に日本では、牛肉の赤みの部分に白身が混ざっている様子を言うことが多い。

32 しゃもじ

杓文字を書く。食事の時、飯をよそおい（飯をとり）、汁をすくう料理道具の1つ。特に飯用の平たい形のものをいう。

33 おにぎり

飯を三角形や俵状などの形に手で握る。その際、塩をまぶして、飯の中に梅干の皮や漬物などを混ぜて握り固める。最近では、中に入れる食材（「ぐ」と呼ぶ）が豊富となっている。日本人が好んで食べる食事の1つ。

34 居酒屋

簡単な料理と酒を手軽に飲食できる庶民的な酒場・酒飲食店のこと。店内ではテーブルとセットになっている椅子や、あるいは畳が敷いてある床上に座り飲食するのが一般的であるが、「立ち飲み」といわれる、カウンターの前に立って酒食する店もある。

35 蒲焼き

鰻や穴子・鱧などの魚類を背中から切り開いて、骨を取り出す。そして適当な長さに切って串にさして「たれ」をたっぷり付けて焼き上げる料理のこと。

36 天麩羅 (テン普拉)

魚・野菜などに水で溶いた小麦粉の衣をつけ、油で揚げた料理のこと。醤油などを使った「つゆ」(天麩羅つゆ)という汁に浸したり、塩をまぶして食べたりする。ポルトガル語が語源とされているが、日本人が好んで食べる料理の1つである。

37 蒲鉾

白身の魚の肉を細かくすりつぶし、片栗粉などを混ぜて味をつけ、練り上げたものを板につけて蒸した食品のこと。古くは儀式に用いていた。

38 心太 (ところてん)

水にさらしたテングサという海藻(藻)を煮溶かした汁をこして、木で作った型に流し込んで固めたゼリー状の食品のこと。「心太突き」という道具で突き出して、酢を混ぜた醤油(酢醤油)や辛子などをかけて食べる。

39 沢庵 (たくあん)

日の光で生干しにした大根を、糠と塩を加えて漬け、重石という大き目の石を上に乗せて作った漬物の1つ。江戸時代の沢庵という僧侶の名から名称を付けたといわれている。日本の多くの家庭で食べられる食品である。

40 鉄ちり

魚の1つで体内に毒を持つ「ふぐ」の鍋料理のこと。「鉄」は「鉄砲」の略で、「ふぐ」が持つ毒を例えた表現。「ちり」は「ちり鍋」のことで、薄切りの魚肉を熱湯につけると「ちりちり」と縮むことから名づけられた。

41 板前

料理店や旅館などの調理を職業とする専門家のこと。食材を切ったりする「まな板」からできた言葉で、関西地方では「板場」と呼ぶことがある。

42 赤飯

もち米に小豆を入れて蒸した飯のこと。「赤い色をした御飯」の意味からきた言葉で、先祖を祀ったりする時や祝い事がある時に赤飯を作る習慣がある。食べる時には飯の上にごま塩などをかけることが多い。

43 懐石料理

茶を飲む前に食べる軽い簡素な食事のこと。濃い茶を飲むと、空腹では胃に刺激が強すぎるので、それをやわらげて適度な状態しておくためのもの。もともとは仏教寺院(特に禅宗寺院)で、僧侶たちが修行の時に温かい小石を腹のあたり(懐という)に入れて空腹を我慢したことからきている。

44 おひたし

野菜のうち、ほうれん草^{そう しゅんぎく}や春菊^{あおな}などの青菜をゆでて、醤油や鰹節などをかけて食べる簡単な料理のこと。青菜を熱湯に「浸す」程度に軽くゆでることからきている。

45 鏡開き

毎年正月の行事の1つ。正月に供えた「鏡餅」^{かがみもち}を割って、汁に煮込んで食べることをいう。「鏡」は、供えた餅が古い時代に使われていた鏡に似て平たく丸いので、この名がついた。

46 おやつ (お八つ)

「八つ時」^{どき}に食べる間食^{かんじよく}のこと。現在の午後2時から4時頃までが、昔の時刻^{じこく}の「八つ時」に相当するのでこう呼ばれ、現在では時刻に関係なく、3度の主食^{あいま}の合間に食べる菓子^{かし}や飴^{あめ}類などの、簡単な軽食をいうことが多い。

47 江戸前

江戸湾^{わん}（現在の東京湾^{とうきやう}）近くで取れる新鮮^{しんせん}な魚介類のこと。江戸時代（17世紀～19世紀後半）に、江戸湾の鰻が新鮮で美味であると評判になり、江戸市民の間に人気が高まったことからこう呼ばれるようになった。

48 お愛想

飲食店などで使う言葉の1つ。客が飲食をすませ、店を出るときに飲食代として金を払うときに、店員などにかける言葉やその身ぶり。

49 押入れ

家屋の内部に備えられた戸^とや襖^{ふすま}という仕切りで区切られた衣類・蒲団類^{ふとん}などを入れておく場所のこと。

50 襖

日本の家屋の内部に作られた設備^{せつび}。部屋の区切りのために使われることが多い。木で組んだ平面に紙や布などを張り合わせて作る。寒さを防ぐ働きもある。

51 床の間

日本の家屋の内部の床を高くし、その正面に書画^{しよが}を飾り、下には花や置物^{おきもの}などを置く場所のことをいう。古い民家などに備えられていることが多い。

52 書斎

家屋の内部の部屋の1つで、読書^{どくしよ}や書き物などをする場所のこと。アパートやマンションなどではなく、個人の持家^{もちいえ}に作られることが多い。

53 勝手口

家屋内部の台所（調理をし飲食する部屋のこと）で勝手という）に備えられた小さな出入り口のこと。たいていは家屋の裏側に当たる場所にあり、以前は、注文した品物を、商店の店員が家に配達する（出前などをする）際に、勝手口から届けることがあった。

54 縁側

日本の家屋の中にある座敷の外側に沿って作られた細い長方形の廊下のことをいう。庭のある家では庭に面して作られ、一般的には木目が入った板状のものが多い。

55 座敷

家屋の中で、来客に対応するために畳を敷きつめた部屋のこと。客間ともいい、客たちと共に、飲食をする宴会などの場所としても使われることもある。

56 敷金

日本では、賃貸住居に入居する際、家賃とは別に、家賃の数か月分の金を支払う習慣がある。その金のことを敷金といい、居住者が転居する時には返金されることがある。

57 ひさし

日本の家屋で、中心の棟の外側に向けて作られた小屋根のこと。窓や縁側、家の正面にある出入り口（玄関という）などに設けて、日よけや雨よけにした。

58 下駄箱

家屋の玄関に設けられた靴などの履物などをしまいこんでおく場所のこと。日本人は、家から出るときは玄関で靴類を履き、家に帰ってきた時は玄関で靴類を脱ぎ、家屋内に上がる習慣がある。その時、下駄箱から靴を出し入れする。

59 熊手

先がカギ形になっている竹製の道具で、落ち葉などをかき集めて掃除する時に使うもの。

60 長屋

家の棟を長く建て、横並びになっている平屋家屋のこと。または、数個の家が同じ棟に隣り合って住む家屋のことをいう。一般的に庶民の家屋として住まわれた。

61 網戸

夏などの季節に、網を張った正方形の板戸のことをいう。風通しをよくしたり、窓から入ってくる虫などを防ぐ働きをした。

62 蚊帳

蚊などの虫を防ぐために寝床の上に釣っておおう道具。麻や木綿などで作られ、以前は一般の家庭に多く使われていたが、現在は激減している。

63 湯たんぽ

冬の時期に、^{きんぞくせい}金属製の入れ物に湯を入れ、寝床などに入れて体や足を暖めた道具のこと。以前はよく使われていたが、現在、その数は減っている。

63 雨戸

家屋のまわりに設けられた戸のことで、たいていは板でできている。雨や^{しつげ}湿気、寒さなどの家屋内への侵入を防ぎ、また、^{ぼうはん こうか}防犯の効果もあった。

64 注連縄

^{しんせい}神聖な空間と他の^{せぞく}世俗的な空間を^{くかく}区画するために、^{しんぜん}神前などに張りめぐらす縄のこと。また、新年を迎えたとき、^{わざわ}災いを防ぐために玄関口に張ったりすることもある。

65 おじぎ

相手と^{きより}適当な距離をとって向かい合い、お互いに^{じょうたい}上体を折り曲げて頭を下げる^{れいぎきほう}礼儀作法のこと。頭の下げ方は相手との関係などで変わってくる。一般的には、^{としうえ}年上の相手や客などに対しては深く頭を下げる人が多い。

66 香典

^{そうしき}葬式で、死者の^{ししや}霊前に^{れいぜん}供える^{こう}香の代わりとする^{きん}金銭のこと。普通は、^{こうでんぶくろ}香典袋と呼ばれる袋に入れて供する。香典を受け取った家族（^{いぞく}遺族という）は、^{こうでんがみ}香典返しという^{へんれい}返礼をするのが一般的である。

67 名刺

^{こがた}小型の^{かみせいひん}紙製品に自分の^{じゅうしょ}氏名・^{かいしゃめい}住所・^{しごとじょう}職業や会社名などを記したもの。日本人は、^{めんだん}仕事上の^{ほうもん}面談や^{しよたいめん}訪問、また、^{ひと}仕事以外では、^{ひと}初対面の人に渡すことが多い。

68 正座

座敷などで、両足を内側に折り曲げて^{しせい}姿勢を正しくして座ること。正式な場面や儀式の時に正座で座ることが多い。

69 エスカレーターの立ち位置

多くの日本人は、駅などの^{こうきょう}公共の場に備えられている、^{じどう}機械による^{のぼ おり}自動の上り下り設備であるエスカレーターに乗る際には、^{さゆう}左右どちらかに立ち、^{かたがわ}片側を^あ空けておくことが多い。

70 頭をかく

一般的に日本人の多くは、自分がおかした^{しっぱい}失敗などに^は恥ずかしく思ったり、^て照れたりする時に、自分の頭を手でかく^{しくき}仕草をすることが多い。

71 清明心

古い時代の日本人が大切にした心のあり方のこと。他人や自分に嘘をつかず、自分が所属している共同体や集団に真心をつくす理想的な精神のことをさす言葉。

72 黄泉国

古い時代の日本人が想定していた死後の世界のことをいう。死者の魂は、比較的この世（現世）と近い場所にある黄泉国に行くと考えられていた。

73 イザナギ・イザナミ

日本の古代神話の主神で夫婦神。イザナギが夫でイザナミが妻。これらの神々は日本の国土やさまざまな神を生んだとされ、イザナギの娘が天照大神。

74 アマテラスオオミカミ（天照大神）

イザナギの娘とされている日本古代神話の女神。天皇家の祖先神でもある。太陽の神と仰がれ、現在の三重県の伊勢神宮という神社に祀られている。

75 神社

日本で信仰されてきたさまざまな神々を祀る場所であり、建物のこと。もともとは社といわれていたが、規模が大きくなり神社と呼ばれた。

76 神仏習合

外来の仏教という宗教と、日本で信仰されていた神々への信仰とが融合した日本人独特の宗教のあり方。神を祀る神社に仏を祀る寺院を建てた神宮寺などが神仏習合をよく示している。

77 大乘仏教

自分自身の修行よりも、多くの他者を救うことをめざす仏教の教えのことで、日本に伝わった仏教は大乘仏教である。

78 墓参り

先祖や家族などの魂を祀ってある墓と呼ばれる施設に参って、死者の霊をなぐさめるために手を合わせるなど、仏教式の作法で拝む行為や行事をいう。

79 位牌

死者の姓名や仏教上の名前である戒名を記した木の札のこと。普通、死者を祀る家屋内の仏壇という仏教式の壇に供えて立てておく。

80 檀家

仏教の信者が所属している寺院から見た信者とその家族のことをいう。檀家は所属している寺院に金銭や物品の寄付（布施という）を行い、寺院を経済的にも支えることがある。

81 数珠

仏教の儀式上の道具。仏像を礼拝するときや、葬式・墓参りなどの際に使う。ガラスや木製の玉を紐に長くつなぎ、手にかけて、あるいは揉んで拝む。

82 喪服

葬儀や喪中の時、人びとが着用する衣服のこと。普通は、薄い黒色などの服をみにまとう。喪服を着ることで、死者の霊をなぐさめ、残された家族（遺族）に哀悼の気持ちをあらわす。

83 喪中

死者の霊をなぐさめ、いたわる礼儀やその時間のこと。死者の遺族が一定期間、他の人々との交際などを避けて家にこもり、身を慎むことをいう。

84 世間

日本独特の人の世や人生、生活場面などをさす言葉。「社会」とは意味が異なり、日本で生まれ育った人であればだいたいのその範囲がわかるが、また曖昧でもある。

★練習問題

- (1) 冬の時期、以前は炭火すみびの、現在は広く電気ねつげんの熱源の上に木でできたやぐらを置いて布団をかけ、座ってその中に手足を入れて体を暖める器具きぐを何と呼ぶか。
① こうり ② すずり ③ こたつ ④ せっちん
- (2) 折りたたみのできる短い4本の脚がついた食卓で、形は一般的に丸いテーブルのことを何というか。
① あんか ② ついたて ③ あんどん ④ ちゃぶだい
- (3) 古くから日本では、便所べんじょ（トイレ）を何と呼んできたか。
① 厠かわや ② 勝手 ③ 床の間 ④ 襖
- (4) 日本で使われている、開け口に金かねがついて金銭を入れておく袋形ふくろけいの財布さいふのことを何というか。
① そでぐち ② むだぐち ③ がまぐち ④ にじりぐち
- (5) 日本では、葬式の際に死者に着物を着せるときに、この方向ほうこうを上にして着せることから、物事がうまくいかなくなることを「() 前まえになる」という。() に入る言葉は何か。
① 右 ② 左 ③ 表おもて ④ 裏うら
- (6) 家庭内で、金銭せつやくを節約・倹約けんやくしたり、副収入ふくしゅうにゅうなどを他の家族に内緒ないしょで貯めることを何というか。
① おめこぼし ② きんちやく ③ へそくり ④ そでのした
- (7) 日本で 雨が降った時に、さして雨をよける道具のことを「かさ」というが、その「かさ」の別の呼び名よびなに含まれないものはどれか。
① こうもりがさ ② じゃのめがさ ③ じんがさ ④ おりたたみがさ
- (8) 日本人が髪かみをすいたり、髪かみにさして飾りかざりにする装身具そうしんぐを何というか。
① かすり ② おび ③ くし ④ かぶと
- (9) 日本で、物を包んで持ち運んだりする時に使う四角形の布状ぬいのものを何というか。
① はちまき ② さんだる ③ まんと ④ ふろしき
- (10) 小さなにぎり飯いを数個と、卵焼き・蒲鉾かまぼこや焼き魚などを箱はこに詰めつ合わせた弁当べんとうを一般的に何と呼んでいるか。
① 幕の内弁当 ② どんぶり弁当 ③ 日の丸弁当 ④ お好み弁当

- (11) 飯に水を加えて炊き込み、味噌などで味付けをして魚介類や野菜などを加えて食べる粥のことを何というか。
① さつまあげ ② せきはん ③ おじや ④ すいとん
- (12) 魚のマグロの刺身などにとろろをかけた料理のことを何というか。
① 田掛け ② す掛け ③ しる掛け ④ 山掛け
- (13) 一般的に、正月の料理や祝い事で見られる、白身の魚の肉をすりおろしたものと卵を混ぜて味付けをして焼く。最後は渦巻状に巻いて食べる見た目が派手な色をした料理を何というか。
① かっぱまき ② だてまき ③ すまき ④ てっかまき
- (14) 屋敷内の中心となる棟や建物を何というか。
① ちゅうぼう ② どま ③ おもや ④ おおたな
- (15) お互いに、手と手を握り、挨拶することを日本では何というか。
① おじぎ ② うなづく ③ うでぐみ ④ あくしゅ
- (16) 一般的に、欧米の文化は「罪」の文化といわれるのに対し、日本は何の文化と指摘されているか。
① 恥 ② 道 ③ 天 ④ 礼
- (17) 旅行などで、行った先の名産品などを家族や友人たちに買って帰る贈り物のことを何というか。
① おはじき ② ひきでもの ③ もてなし ④ みやげ
- (18) 古くから、日本人の女性の美しさや、静寂で奥ゆかしい品性のことを何といつてきたか。
① にようぼう ② おくがた ③ やまとなでしこ ④ はいから
- (19) 日本で、食事をするときを使う箸の数え方は何か。
① 一枚 ② 一膳 ③ 一株 ④ 一組
- (20) 毎年、正月に作られる特別な料理のことを何というか。
① おせち ② おはぎ ③ かいせき ④ しょうじん
- (21) 水やお湯を入れて、手足や顔などを洗ったり、衣服の洗濯に使う容器のことを何というか。
① ぼん ② わん ③ たらい ④ きね

- (22) 酒などを入れる、陶器^{とうき}や金属、ガラスなどでできている容器のことを何というか。
① とっくり ② くら ③ ちょこ ④ ばけつ
- (23) 雨の時に着用する雨よけのマントのことを、日本では何というか。
① けさ ② かっぱ ③ たび ④ ずきん
- (24) 日本では、毎年正月になると家の玄関前に、木の飾りをする。その木の飾りのことを何というか。
① つらら ② かどまつ ③ つるべ ④ ががく
- (25) お互いに約束^{やくそく}をするときに、指^{ゆび}と指を引っかけあう行為^{こうい}を何というか。
① 指さす ② 指きり ③ 指折り ④ 指貫^ぬき
- (26) 日本人の会社員などが、会社の仕事上の目的で他の地方や都市に行くことを何というか。その期間はさまざまである。
① 出張^{しゅちやう} ② 転向^{てんこう} ③ 左遷^{させん} ④ 出世^{しゅっせ}
- (27) 竹の骨に紙などを張ってつくり、あおいで風を吹かし、涼む^{すず}小型の道具を何というか。
① うちわ ② ようじ ③ ちょうし ④ くまで

★解答・ワンポイント解説

- (1) 正解は③ ①は入れ物のこと。④は便所（トイレ）のこと。
- (2) 正解は④ ①は炭火などを入れて暖める暖房器具。②は家屋内にある仕切り具。③は古くからある油を入れた皿を使う照明具。
- (3) 正解は①
- (4) 正解は③ ①は袖口と書く。④は茶道で使われる茶を飲む小屋（茶室）に入る小さな入り口。
- (5) 正解は② 左前という。
- (6) 正解は③ ①は他人の失敗などを見逃したり、許したりすること。④は袖の下と書き、金品を贈りつける賄賂のこと。
- (7) 正解は③ ③は古い時代に戦乱でかぶったかぶりもの。
- (8) 正解は③
- (9) 正解は④ ④は風呂敷と書く。
- (10) 正解は① ③は飯に梅干が入っただけの弁当の俗称。
- (11) 正解は③ 雑炊のこと。
- (12) 正解は④
- (13) 正解は② 伊達巻と書く。色や形などが派手な食べ物。
- (14) 正解は③ ③は母屋と書く ①は厨房と書き、料理をする台所などのこと。④は大店と書き、大商店のことをいう。
- (15) 正解は④ ④は握手と書く。①は頭を下げる行為。②は相手に同意や賛意を示す時に頭を上下に動かす行為。③は腕組みと書く。
- (16) 正解は① 日本人は恥を重んじる文化とされてきた。
- (17) 正解は④ ③は相手や客を丁寧^{ていねい}に扱い、食事などを提供するすること。
- (18) 正解は③ ④は欧米風の服装や雰囲気^{ふんいき}のこと。
- (19) 正解は② ③は植木^{うえき}などの数え方。
- (20) 正解は① ④は魚や肉などを避けて野菜などを中心に食べる料理。
- (21) 正解は③
- (22) 正解は① ③は陶器製の酒を入れて飲む器。
- (23) 正解は② ④は頭をおおう布のこと。
- (24) 正解は② ①は冬に家の屋根に垂れてくる氷の柱。③は井戸の水をくむ桶のこと。
- (25) 正解は②
- (26) 正解は① ③は仕事上で失敗や損失を与えたりして、別の地位の低い職に代えられること。
- (27) 正解は① ③はとっくりの別名。